



図. 兵庫県川西市で撮影されたシナチクノマイガ.

と考えられるノメイガ *Eumorphobotys eumorphalis* (Caradja, 1925) の日本からの初記録. 蛾類通信, 300 : 683-684.

阪上洸多, 2024. ハチ北高原から得られた蛾類 3 種の採集例. きべりはむし, 47(1) : 68-69.

(Hiroki UNO 大阪府池田市)

兵庫県初記録のアブラムシ 2 種

菅藤康平

筆者が実施している兵庫県赤穂市, 兵庫県立大学附属高等学校周辺を中心としたアブラムシ類のファウナ調査で兵庫県初記録となるアブラムシを 2 種採集し, 興味深い知見が得られたので報告する. 本稿作成にあたり, 写真・情報の使用を承諾いただいた定 倫太郎氏, ウネビシンムネアブラムシの同定にご協力くださった青木重幸氏にお礼申し上げる.

(1) ウネビシンムネアブラムシ *Neodermaphis unebiensis* Sorin, 2006

1985 年に奈良県畝傍山でアラカシの枝から採集された 1 個体をもとに, 宗林氏によって 2006 年に記載された種で, その後は記録されていない.

今回の調査で兵庫県内の 3 地点から確認され, いずれもアラカシの枝から得られた. 周年アラカシの枝で生活すること, 秋ごろに幼虫が生まれるということが明らかとなった. 幼虫と思われる個体は, 成虫のすぐそばにいたことから幼虫と判断した.

赤穂市 塩屋高山ピクニック公園, 無翅成虫, 9. II. 2025; 無翅成虫, 9. III. 2025; 無翅成虫 (多数), 22. VIII. 2025 (図 1).
たつの市 新宮町角亀川付近, 無翅成虫, 23. VII. 2025.
上郡町 兵庫県立大学附属高等学校の駐車場, 無翅成虫, 8. IX. 2025; 無翅成虫及び幼虫と思われる個体, 16. X. 2025 (図 2).

(2) コルクガシミツアブラムシ *Thelaxes suberi* (Del Guercio, 1911)

本種はヨーロッパ原産の外来種であり, 日本では東京都から日本初記録として報告されている (Sasaki, 2023). その後, 神奈川県および大阪府においても確認されている (Sasaki et. al., 2025). 国内における本種の寄主植物については, 現在のところウバメガシ *Quercus phillyraeoides* に限定されている.

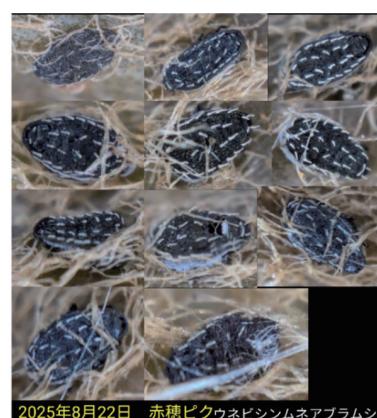
筆者は, 兵庫県赤穂市寿町のつばき公園 (兵庫県赤穂市寿町 3-3) において, ウバメガシの新葉に寄生する本種を確認した. また, 同時に本種に随伴していたハリブトシリアゲアリ *Crematogaster matsumurai* の存在も認められた. このアリ (図 7) については, 「日本産アリ類画像データベース」を参照し, 「触角べん節のこん棒部は 3 節からなること. 中胸背面は平たく, 側方で縁どられること. 前伸腹節刺は短く歯状で, 中胸背面側方の縁どりは鈍いこと」から同定した. 本種に随伴する種は, トビイロケアリ *Lasius japonicus*, アミメアリ *Pristomyrmex punctatus*, ハリブトシリアゲアリが知られている (Sasaki et. al., 2025). 筆者が調査を実施したつばき公園では, ハリブトシリアゲアリの随伴のみを確認している. また本種をシラカシで確認したとの情報もあるが (定氏, 私信), 筆者は未見である.

赤穂市 寿町つばき公園, 無翅成虫と幼虫 (多数), 22. VIII. 2025 (図 3-6); 無翅成虫と幼虫 (多数), 24. VIII. 2025.

引き続き, この 2 種を含め兵庫県におけるアブラムシ相を調査していきたい. 特にウネビシンムネアブラムシに関しては, 全国的に見ると発見例が少ないため, 新



図 1.



2025年8月22日 赤穂ピクウネビシンムネアブラムシ

図 2.



図3.



図4.



図5.



図6.



図7.

たな生態に関する知見を調査していきたい。

○引用文献

アリ類データベース作成グループ, 2008. 日本産アリ類画像データベース. 宮城教育大学. <http://ant.miyakyo-u.ac.jp/J/>

Sasaki D., S. Sugimoto, Y. Yamauchi, 2025. Additional Records of a Non-native Species, *Thelaxes suberi* (Hemiptera: Aphididae: Thelaxinae) on Its Distribution, Host Plant, and Attending Ant in Japan, with Notes on Its Nymphal Morphology and Phenotypic Plasticity. Japanese Journal of Systematic Entomology, 31 (1): 64–68.

(Kohei KANTO 兵庫県立大学附属高等学校)

兵庫県におけるケナガゲンバイの採集記録及びその生態

菅藤康平

ケナガゲンバイ *Tingis (Tropidocheila) shaowuana* Drake & Maa, 1953 は、体長 3.6-3.8 mm で、背面は褐色、濃褐色の不規則な斑紋が散在する。全国的に稀な種であり、ネット上において観察事例は散見されるものの生態についてはほとんど不明である。

筆者は 2025 年 7 月 24 日に定 倫太郎氏より本種の情報を頂き、2025 年 7 月 25 日に兵庫県立大学附属高等学校周辺の調査を実施したところ、キランソウ *Ajuga decumbens* である可能性が高い植物にて成虫及び幼虫、食痕を確認した。

採集記録

兵庫県上郡町光都 兵庫県立大学附属高等学校～星の広場, 24. VII. 2025. 定 倫太郎採集 (図 2, 3); 同地, 25. VII. 2025. 筆者採集 (図 4 - 8).

すべてキランソウである可能性が高い植物より採集された。今回得られたサンプルの一部は、相馬 純氏(弘前大学)に郵送している。



図1.



図2.

図3.

図4.



図5.

図6.

図7.



図8.

図9.

図10.